

総合科学技術高等学校（仮称）P F I 事業
審査講評

平成 18 年 3 月 14 日

総合科学技術高等学校（仮称）整備事業者選定審査会

総合科学技術高等学校（仮称）P F I 事業に関する提案審査の結果について、次のとおり講評する。

総合科学技術高等学校（仮称）整備事業者選定審査会

	氏名	所属等	役職
会長	三橋 良士明	静岡大学	人文学部教授
副会長	寒竹 伸一	静岡文化芸術大学	デザイン学部教授
委員	坂巻 道子	静岡県生涯学習財団	副理事長（弁護士）
委員	松島 忠範	静岡文化芸術大学	参事
委員	横山 純一	日本政策投資銀行東海支店	企画調査課長
委員 1	鈴木 充	静岡県総務部	財務総室長
委員 2	荻田 英之	静岡県都市住宅部	営繕総室長
委員	藤原 通孝	静岡県教育委員会	教育次長

- 1 平成 17 年 3 月 31 日までは、静岡県総務部財務総室長 村松 茂
- 2 平成 17 年 3 月 31 日までは、静岡県都市住宅部営繕総室長 渡邊 輝元

目 次

1 審査の経緯	1
2 資格審査(一次審査)	1
(1) 参加資格要件審査	2
(2) 事業概要提案審査	2
ア 提案・採点方法.....	2
イ 評価区分及び設問と配点.....	2
ウ 採点基準	3
エ 評価式及び合格点.....	3
オ 設問ごとの具体的な評価内容	3
(3) 資格審査（一次審査）合格者	6
3 提案評価(二次審査)	7
(1) 入札金額の確認、基礎審査	7
(2) 総合審査	7
ア 評価区分と配点.....	7
イ 評価式	7
ウ 評価項目ごとの得点化方法.....	7
エ 評価項目ごとの具体的な評価内容	8
(3) 提案評価（二次審査）結果	18
4 総評.....	18

別紙資料 1 総合科学技術高等学校（仮称）P F I 事業 事業概要提案審査結果一覧表

別紙資料 2 総合科学技術高等学校（仮称）P F I 事業 提案評価（二次審査）結果一覧表

1 審査の経緯

	日程	内容
第1回審査会	平成17年 3月17日	1．説明・報告 (1) 総合科学技術高等学校(仮称)概要説明 (2) P F I 導入可能性調査結果説明 2．審査 (1)実施方針案概要説明 3．質疑応答・意見交換
第2回審査会	平成17年8月24日	1．説明 (1)特定事業の選定について 2．評価 (1)入札説明書案 (2)要求水準書案 (3)事業契約書案 (4)落札者決定基準案
第3回審査会	平成17年11月15日	1．報告 (1) 入札参加資格の確認について 2．事業概要提案書の審査 (1) 事業に対する基本的考え方 (2) 設計業務に関する考え方 (3) 維持管理業務に関する考え方 (4) 運営業務に関する考え方 (5) 事業概要審査結果 2．協議 (1) 第二次審査に係る評価の観点について
第4回審査会	平成18年 3月6日	1．報告 (1)入札金額及び基礎審査について 2．審査 (1)設計業務に関する事項 (2)新設施設の建設業務に関する事項 (3)産業教育装置等の調達等に関する事項 (4)既存施設の解体等業務に関する事項 (5)新設施設の維持管理業務に関する事項 (6)新設施設の運営業務に関する事項 (7)事業計画全般に関する事項
第5回審査会	平成18年 3月14日	1．審査 2．審査結果講評資料の検討

2 資格審査（一次審査）

応募者が、本事業を行う上で必要となる資格を有していることを確認するとともに、科学技術高等学校に関する基本的な知識を備え、本事業に対する考え方が、静岡県(以下「県」という。)の事業目的や方針と適合し、かつ、その達成が期待できるか否かについて確認した。

また、応募者の負担軽減を図る目的などから、「参加資格要件審査」に加え「事業概要提案審査」

を行うこととし、いずれの審査の要件をも満たした場合に、提案評価（二次審査）への応募を認めるものとした。

平成17年10月17日までに6グループから資格審査書類の提出があり、入札参加資格要件の確認及び事業概要提案審査の結果は、次のとおりである。

< 資格審査（一次審査）に応募があったグループ >（50音順）

グループ名	安藤建設グループ	大林組静岡グループ	鹿島グループ	清水・静鉄グループ	するがの技	大成建設グループ
代表企業	安藤建設(株) 静岡支店	(株)大林組 静岡営業所	鹿島建設(株) 静岡営業所	清水建設(株) 名古屋支店 静岡営業所	木内建設(株)	大成建設(株) 静岡営業所

(1)参加資格要件審査

応募のあった6グループすべてについて、入札参加資格の要件を満たしていることを確認した。

(2)事業概要提案審査

本事業内容についての理解度及び基本的な考え方等を確認するため、提出された提案書に基づき、以下のとおり審査を行った。

ア 提案・採点方法

9問の設問に対し、A4版用紙12枚以内の論文（設問に対する答案）記述形式とし、加点（点数積み上げ）方式で採点した。

イ 評価区分及び設問と配点

評価区分	配点	設問	配点
事業に対する基本的な考え方	27	a) 本校設置の趣旨や基本理念を生かし、事業目的に基づいた事業を実施するための基本的な考え方を、A4版1枚で記述してください。	9
		b) 本事業を確実かつ効果的に実施するための業務実施体制、リスク管理方針及び安定的な事業実施のために必要な方策について、基本的な考え方を、A4版1枚で記述してください。	9
		c) 地域社会経済振興のための基本的な考え方を、A4版1枚で記述してください。	9
設計業務に関する考え方	48	a) 機能ごとにまとまりのある利用しやすい施設配置・室配置にするための基本的な考え方を、A4版2枚以内で記述してください。	16
		b) 地域に配慮した設計計画にするための基本的な考え方を、A4版1枚で記述してください。	16

		c) 環境に配慮し、かつ、ライフサイクルコストの低減に配慮した設計計画にするための基本的な考え方を、A4版1枚で記述してください。	16
維持管理業務に関する考え方	16	a) 建築物、設備及び屋外体育施設・外構等の性能及び状態を常時適切な状態にしておくための維持管理業務遂行計画について、基本的な考え方を、A4版1枚で記述してください。	8
		b) 長期に亘り、建物性能を維持し資産価値を保全するための長期修繕（保全）業務（大規模修繕業務を含む）遂行計画について、基本的な考え方を、A4版1枚で記述してください。	8
運営業務に関する考え方	9	a) 食堂・売店利用者、生涯学習講座受講者の満足度を高め、利用者数、受講者数を確保するための工夫について、基本的な考え方を、A4版2枚以内で記述してください。	9
合計	100		100

ウ 採点基準

設問ごとに下記採点基準に示すA、B、C、D、Eの5段階で評価し得点化した。なお、得点は小数点以下第3位を四捨五入した。

A：得点率が、80%を超えており、今後、非常に優れた提案が期待できる場合は、設問の配点（9点、16点、8点、以下同じ）×100%とする。

B：得点率が、60%を超えており、今後、優れた提案が期待できる場合は、設問の配点×75%とする。

C：得点率が、40%を超えており、今後、提案が期待できる場合は、設問の配点×50%とする。

D：得点率が、20%を超えており、今後、提案がやや期待できる場合は、設問の配点×25%とする。

E：得点率が、20%以下であり、今後、提案が期待できない場合は、設問の配点×0%とする。

エ 評価式及び合格点

得点 = [評価区分 設問 a) + 評価区分 設問 b) + 評価区分 設問 c)] + [評価区分 設問 a) + 評価区分 設問 b) + 評価区分 設問 c)] + [評価区分 設問 a) + 評価区分 設問 b)] + [評価区分 設問 a)] とし、60点以上獲得した者を合格とした。

オ 設問ごとの具体的な評価内容

設問ごとの具体的な評価内容は、次のとおりである。なお、得点については、別紙資料1「総合科学技術高等学校（仮称）PFI事業 事業概要提案審査結果一覧表」のとおりである。

評価区分 設問 a)

本校設置の趣旨や基本理念を生かし、事業目的に基づいた事業を実施するための基本的な考

え方を、A4版1枚で記述してください。

【評価】

- ・総合科学技術高等学校としての「ものづくり教育の拠点校」としての基本理念は各社とも理解はされている。
- ・大成建設グループ、清水・静鉄グループ、するがの技、大林組静岡グループは、基本理念を網羅した事業実施の具体的、詳細な記述がなされている。

評価区分 設問 b)

本事業を確実かつ効果的に実施するための業務実施体制、リスク管理方針及び安定的な事業実施のために必要な方策について、基本的な考え方を、A4版1枚で記述してください。

【評価】

- ・業務実施体制については、各グループとも基本的な考え方がまとまっているが、するがの技、安藤建設グループ、鹿島グループは代表企業を中心とした管理体制が不明確となっている。
- ・事業の安定性については、各グループとも基本的な考え方がまとまっているが、具体的、詳細な記述があるグループ（するがの技、大成建設グループ、清水・静鉄グループ）と、記述の乏しいグループ（大林組静岡グループ、安藤建設グループ）に分かれている。

評価区分 設問 c)

地域社会経済振興のための基本的な考え方を、A4版1枚で記述してください。

【評価】

- ・各グループとも、地域社会経済の振興についての基本的考え方が明確であり、具体的な振興策が見られる。
- ・するがの技については、地元企業がリーダーシップを発揮することで、将来的に地域全体でPFI事業に対する対応力アップを図る旨の斬新な提案がなされている。

評価区分 設問 a)

機能ごとにまとまりのある利用しやすい施設配置・室配置にするための基本的な考え方を、A4版2枚以内で記述してください。

【評価】

- ・各グループとも、施設配置、室配置について基本的な考え方が明確であり、優れた提案と考えられる。
- ・大林組静岡グループについては、施設配置、室配置ともに具体的、かつ詳細な提案が見られ、より優れた内容となっている。

評価区分 設問 b)

地域に配慮した設計計画にするための基本的な考え方を、A4版1枚で記述してください。

【評価】

- ・各グループとも周辺住民への配慮について、基本的な考え方が明確となっており、大林組静岡グループは地域住民への啓発等、優れた記述となっている。

- ・各グループとも周辺環境に関する基本的な理解は出来ており、特に大林組静岡グループ、安藤建設グループはデザイン面等具体的で、詳細な記述が見られる。
- ・鹿島グループは、地域とのふれあいが可能となるスペースについての記述がなく、具体性に欠けた記述となっている。

評価区分 設問 c)

環境に配慮し、かつ、ライフサイクルコストの低減に配慮した設計計画にするための基本的な考え方を、A4版1枚で記述してください。

【評価】

- ・自然エネルギーの利用に関する基本的な理解はされているが、グループにより具体性に関して、ばらつきが見られた。大成建設グループ、大林組静岡グループは、特に具体的な記述により詳細に説明があり、清水・静鉄グループ、鹿島グループは具体性に欠けている。
- ・ライフサイクルコストの低減については、各グループとも基本的な理解はされているが、斬新さの面で内容にはばらつきが見られた。大成建設グループ、鹿島グループは具体的、詳細で踏み込んだ記述がなされており、逆に清水・静鉄グループは一般的な記述で、具体性にも欠けている。

評価区分 設問 a)

建築物、設備及び屋外体育施設・外構等の性能及び状態を常時適切な状態にしておくための維持管理業務遂行計画について、基本的な考え方を、A4版1枚で記述してください。

【評価】

- ・各グループとも維持管理に関する基本的な考え方は理解されている。
- ・大成建設グループ、清水・静鉄グループ、大林組静岡グループ、鹿島グループについては、業務の詳細について踏み込んだ提案がなされている。

評価区分 設問 b)

長期に亘り、建物性能を維持し資産価値を保全するための長期修繕（保全）業務（大規模修繕業務を含む）遂行計画について、基本的な考え方を、A4版1枚で記述してください。

【評価】

- ・各グループとも長期修繕（保全）業務に関する基本的な理解がなされており、特に大成建設グループ、鹿島グループは材料選定等、具体的な提案となっている。
- ・学校運営への支障の生じないような対応については、大林組静岡グループが具体性に欠け、鹿島グループは、記述がなされていない。

評価区分 設問 a)

食堂・売店利用者、生涯学習講座受講者の満足度を高め、利用者数、受講者数を確保するための工夫について、基本的な考え方を、A4版2枚以内で記述してください。

【評価】

- ・食堂運営、生涯学習講座運営については、各グループとも基本的な理解がなされているが、

具体的対応について、グループ間の格差が出ている。

・食堂運営、生涯学習講座運営共に、大成建設グループ、安藤建設グループについては、実績に基づく、分析、具体的対応が記述されており優れているが、大林組静岡グループ、鹿島グループについては、具体的な提案が少ない。

(3)資格審査（一次審査）合格者

当審査会における審査の結果を受け、県は、6グループすべてを合格とし、提案評価（二次審査）への参加を認めた。

3 提案評価（二次審査）

(1)入札金額の確認、基礎審査

入札書類に基づき、6グループすべてについて、入札書に記載された入札金額が県の設定した予定価格を超えていないこと、及び提案書等に記載された内容が要求水準書等に示す要件を満たしていることの報告を県から受け、審査会としてこれを認めることとした。

(2)総合審査

総合審査にあたっては、6グループの提案書等に記載された内容について、下記に示す「評価項目ごとの得点化方法」に従って評価し得点化した。審査は、具体的なグループ名や企業名を伏せる匿名審査を基本とした。一部、事業者の実績などが審査に係る項目については、具体的なグループ名や企業名を明らかにする実名審査で行った。実名審査を行った項目は、以下のとおりである。

- ・落札者決定基準の a)のうち食堂・売店運営に取組む事業者の実績
- ・落札者決定基準の b)のうち生涯学習講座運営に取組む事業者の実績
- ・落札者決定基準の 事業計画全般に関する事項の全て

ア 評価区分と配点

評価区分	評価項目数	配点
設計業務に関する事項	17	30
新設施設の建設業務に関する事項	3	5
産業教育装置等の調達等に関する事項	3	3
既存施設の解体等業務に関する事項	2	2
新設施設の維持管理業務に関する事項	6	9
新設施設の運営業務に関する事項	6	6
事業計画全般に関する事項	6	15
サービス購入料に関する事項	-	30
計		100

イ 評価式

総合得点 = + + + + + + +

ウ 評価項目ごとの得点化方法

各項目の評価は、5段階で評価した。（サービス購入料に関する事項を除く）

評価	評価の意味合い	得点化方法
A	特に優れている	配点 × 1.00
B	AとCの中間程度	配点 × 0.75
C	優れている	配点 × 0.50
D	CとEの中間程度	配点 × 0.25
E	優れているとはいえない	配点 × 0.00

得点は小数点以下第3位を四捨五入

エ 評価項目ごとの具体的な評価内容

評価項目ごとの具体的な評価内容は、次のとおりである。なお、得点については、別紙資料「総合科学技術高等学校（仮称）P F I 事業 提案評価（二次審査）結果一覧表」のとおりである。

設計業務に関する事項

「設計業務に関する事項」については、30点を配点し、次の17小項目（5中項目）ごとに評価を行った。

a)敷地の利用計画（4点）

- ・ゆとりがあり、機能ごとにまとまりのある利用しやすい施設配置計画・外構計画（4点）
大林組静岡グループの提案は歩車分離や移動動線に配慮したまとまりのある施設配置となっている。清水・静鉄グループ、安藤建設グループは利用しやすい施設配置、自然や環境に十分配慮した外構計画を提案しているが、屋外運動施設で清水・静鉄グループはサッカーゴールの位置、安藤建設グループは野球グラウンドの向きに課題が見られる。するがの技、鹿島グループ、大成建設グループは利用しやすい施設配置、外構計画を提案しているが、屋外運動場配置で競技ごとの領域に重複があるなど課題が見られる。

b)諸室の配置計画及び各室計画（9点）

- ・様々な利用形態に対応した、使いやすい諸室の配置計画及び動線計画（4点）
大林組静岡グループ、清水・静鉄グループはまとまりのある諸室配置として使いやすく、また管理や生徒同士の交流に工夫を凝らした計画としている。安藤建設グループは生徒同士の憩い交流の場となるスペースの提案があり、体育館、多目的ホールに使いやすい工夫がなされているが諸室配置が分かりにくい部分がある。鹿島グループ、大成建設グループは、生徒同士の憩い交流の場となるスペースの提案があるが、諸室配置が分かりにくい部分がある。するがの技はわかりやすくまとまりのある諸室配置としているが、工業実習室の室形状がL字型で使用しにくい室があり、またプールの位置が校舎棟から離れている。
- ・日照・通風に配慮するなど快適かつ健康的な室内環境の確保（1点）
大林組静岡グループ、大成建設グループは採光、日照、通風に配慮し、快適に過ごすことができ、潤いのある内装、変化に富んだ魅力的な空間を提案している。するがの技、清水・静鉄グループは採光、日照、通風に配慮し、快適に過ごすことができる計画としているが、変化に富んだ魅力的な空間の提案が不足している。安藤建設グループは日照、採光に配慮しており、潤いのある内装、空間を提案しているが、工業実習棟の一部に換気上の課題がある。鹿島グループは日照、通風の面で特別教室棟、工業実習棟が十分でない提案となっている。

・変化に対応できるフレキシビリティの高い設計計画（1点）

大林組静岡グループは普通教室、特別教室、工業実習室への増築対応や間仕切り変更、設備の変更対応について、様々な変更に対応が明確な提案をしている。するがの技、鹿島グループ、清水・静鉄グループ、大成建設グループ、安藤建設グループは増築対応、間仕切り変更、設備対応について、具体的な提案をしている。

・地域開放及び生涯学習講座の円滑な運営に配慮した設計計画（1点）

するがの技はアクセスがしやすく、開放施設利用者と生徒の交錯が少なく、管理諸室の付近にまとめた管理のしやすい配置計画となるよう配慮されている。清水・静鉄グループ、安藤建設グループはアクセスがしやすく、管理しやすい提案となっている。大林組静岡グループ、大成建設グループは開放施設部分がまとまっているが、管理室から離れた計画となっている。鹿島グループは開放部分が広範囲にわたっており、また開放部分の区画が明確とならず、管理上問題がある。

・高機能かつ多機能な学習環境を実現する各室設計計画（2点）

大林組静岡グループ、大成建設グループは高機能かつ多機能な学習環境のためのスペース、備品等について、先進的な学ぶための提案がなされている。鹿島グループ、安藤建設グループは高機能かつ多機能な学習環境のためのスペース、備品等について具体的な提案がなされている。するがの技、清水・静鉄グループは提案はされているが、一般的な提案にとどまっている。

c)地域への配慮（8点）

・十分な砂塵（防風）等対策（1点）

大林組静岡グループはグラウンドの砂塵が飛散しにくい対策と飛散が近隣へ影響を与えない措置、ボールが鉄道敷地等へ出にくい配置、対策について、効果のある提案をしている。するがの技、清水・静鉄グループ、大成建設グループはボールが鉄道敷地等へ出にくい配置、対策について、具体的な提案をしているが、グラウンドの砂塵の飛散対策が不足している。鹿島グループ、安藤建設グループは砂塵の飛散防止に具体的な提案をしているが、鹿島グループはサッカーボールの隣地側への飛び出し、安藤建設グループは野球ボールの鉄道側への飛び出しへの対策が不足している。

・十分な騒音等対策、日照・通風への配慮（2点）

するがの技、清水・静鉄グループは建築計画、配置計画で近隣への悪影響を低減させるよう配慮、工夫している。鹿島グループは近隣への悪影響の低減について配慮しているが、日照の一部と防臭対策の不足が見られた。安藤建設グループは近隣への悪影響の低減について配慮しているが、日照と騒音対策の一部に不足が見られた。大林組静岡グループは近隣への悪影響の低減について防臭対策、配置計画による日照対策に検討の不足が見られた。大成建設グループは近隣への悪影響の低減について工業実習棟の防臭対策、

配置計画による日照対策に検討の不足が見られた。

・学校敷地における十分な雨水等排水対策（1点）

大林組静岡グループ、安藤建設グループは適切に雨水排水対策が取られており、洪水対策において学校活動への影響に配慮し地下ピットによる調整池機能を確保している。するがの技、大成建設グループは適切に雨水排水対策が取られており、学校活動への影響についても配慮された提案となっている。鹿島グループ、清水・静鉄グループは雨水対策が適切に取られているが、学校活動への影響についての具体的な提案がない。

・夜間照明による光害等の防止、周辺住民のプライバシー等への配慮（1点）

鹿島グループ、大成建設グループは周辺住民への光害の影響、プライバシーへの配慮に十分に配慮し影響を低減させる計画としている。するがの技、大林組静岡グループ、清水・静鉄グループは周辺住民への光害の影響、プライバシーへの配慮した提案をしているが、するがの技、清水・静鉄グループは夜間照明、大林組静岡グループはプライバシーへの配慮に不足している部分がある。安藤建設グループは西面隣地側への光害の影響、北側へのプライバシーへの配慮が不足している。

・地域の実態や周辺の景観・町並み形成に配慮した設計計画（建築デザイン）（2点）

大林組静岡グループは建物の素材、形状に周辺との調和を十分に考慮し、総合科学技術高校としてのアイデンティティ確立のためのデザインに優れた提案をしている。鹿島グループ、安藤建設グループは建物の素材、形状に周辺との調和を考慮し、総合科学技術高校としてのデザインを提案している。清水・静鉄グループ、大成建設グループは総合科学技術高校としての特色ある具体的な提案にやや不足するが、清水・静鉄グループは建物の素材、形状に周辺との調和を十分に考慮し、大成建設グループは旧東海道沿いの町並み軸への調和に配慮したデザインを提案している。するがの技は周辺の景観、町並み形成への配慮や総合科学技術高校としてのデザインを提案しているがやや不足している。

・地域住民とのふれあいを可能にする空間設計（1点）

大林組静岡グループは管理がしやすく、総合科学技術高校としての特色を生かした地域住民とのふれあいのスペースの優れた提案をしている。するがの技、鹿島グループ、清水・静鉄グループ、大成建設グループは管理がしやすく、総合科学技術高校としての特色を生かした地域住民とのふれあいのスペースの提案をしている。安藤建設グループは総合科学技術高校としての特色を生かした地域住民とのふれあいのスペースの提案をしているが、一部に管理のしにくい部分が見られる。

d)環境への配慮及びライフサイクルコストの低減（4点）

・地球全体の環境への負荷軽減に配慮した設計計画（2点）

大林組静岡グループ、安藤建設グループは自然エネルギーの利用、環境負荷低減等につ

いて具体的で優れた多くの提案がなされており、それらのデータを大林組静岡グループは LAN 上で、安藤建設グループは環境メディアラウンジで積極的に実感できる提案をしている。鹿島グループ、大成建設グループは自然エネルギーの利用、環境負荷低減等について具体的な提案がなされている。するがの技、清水・静鉄グループは自然エネルギーの利用、環境負荷低減等について提案がなされているが、不足する部分が見られる。

・ライフサイクルコストの低減に配慮した設計計画（2点）

鹿島グループ、大林組静岡グループはメンテナンス性に優れ、ライフサイクルコストや維持管理、清掃コストの低減に対する具体的な多くの提案をしている。するがの技、清水・静鉄グループ、安藤建設グループはメンテナンス性に優れ、ライフサイクルコストや維持管理、清掃コストの低減に対する具体的な提案をしている。大成建設グループは維持管理、清掃コストの低減に対する提案があるが、ライフサイクルコスト等への提案が少ない。

e)快適で安全な施設計画（5点）

・ユニバーサルデザインへの積極的な取組み（2点）

大林組静岡グループ、安藤建設グループは屋外、屋内のユニバーサルデザインへの積極的な取組み、具体的で優れた提案を行っている。するがの技は屋外、屋内のユニバーサルデザインへの取組み、具体的な提案を行っている。鹿島グループ、清水・静鉄グループ、大成建設グループはユニバーサルデザインへの取組み提案を行っているが、鹿島グループ、清水・静鉄グループは屋外について、大成建設グループは屋内について一部に配慮の不足がみられた。

・耐震性、防災性、防犯性の高い設計計画（2点）

鹿島グループ、大林組静岡グループ、清水・静鉄グループ、大成建設グループは地震、火災に対する安全性及び防犯性に配慮した具体的で優れた提案をしている。するがの技、安藤建設グループは地震、火災に対する安全性及び防犯性に配慮した具体的な提案をしているが、記述にやや不足する面がみられる。

・木材の活用に配慮した設計計画（1点）

鹿島グループ、大林組静岡グループ、大成建設グループは開放施設を含む複数の建物に積極的な木材の使用を行い、デザイン、活用方法に工夫を凝らしている。するがの技は複数の建物に積極的な木材の使用を行っている。清水・静鉄グループ、安藤建設グループは建物に木材の使用を行っている。

新設施設の建設業務に関する事項

「新設施設の建設業務に関する事項」については、5点を配点し、次の3小項目（2中項目）ごとに評価を行った。

a) 全般（3点）

- ・十分な交通安全対策、及び工事に伴う近隣への悪影響を最小限に抑える建設計画（2点）
 するがの技、大林組静岡グループ、清水・静鉄グループ、大成建設グループ、安藤建設グループは踏切の安全対策や近隣への悪影響を抑える具体的提案で効果的な提案を行っている。鹿島グループは踏切対策が提案されておらず、他の提案も一般的な内容にとどまっている。
- ・廃棄物抑制、リサイクル材利用・CO2発生抑制など地球環境保全に配慮した建設計画（1点）
 各グループとも廃棄物、CO2抑制に工夫をし、リサイクル品の使用に努めた提案をしている。

b) 事業スケジュール（2点）

- ・着工前の手続から施設引渡しまでの具体的かつ妥当なスケジュール計画、工期短縮の工夫、不測の事態が生じた場合にスケジュールを遵守するための信頼できる対策等（2点）
 大林組静岡グループは着工までの詳細な打合せを組み込んだスケジュールが提案されており、工期短縮に関する具体的な提案がなされている。するがの技、清水・静鉄グループ、大成建設グループは具体的なスケジュール、工期短縮の提案、不測の事態への対応等の提案がなされている。鹿島グループ、安藤建設グループは工期短縮の提案等はあるが、承認、製品発注等に関するスケジュールが不明確である。

産業教育装置等の調達等に関する事項

「産業教育装置等の調達等に関する事項」については、3点を配点し、次の3小項目（2中項目）ごとに評価を行った。

a) 全般（2点）

- ・要求水準を満たし、且つ教育効果の高い、産業教育装置等の整備計画（1点）
 清水・静鉄グループ、大成建設グループ、安藤建設グループは産業教育に必要な設備の特性を十分に発揮できるよう具体的で優れた提案を行っており、特に、教育効果の高い機器の整備について産業界の技術動向にも配慮した具体的な提案がされている。大林組静岡グループは機能やメンテナンス性を考慮した提案をしており、教育効果の高い機器について具体的な提案がなされており、移設装置の整備についても詳細な提案がされている。するがの技、鹿島グループは機能やメンテナンス性を考慮した提案をしているが、産業教育装置等の提案について基本的な考え方を中心とした記述となっており具体性にかける部分が見られる。
- ・産業教育装置等の機能や特質に配慮した、環境基礎工事・電源工事・換気工事等の付帯工事の計画（1点）
 大成建設グループは産業教育装置及び設備の特質を的確にとらえ、学習環境の維持向上

に十分配慮した付帯工事の提案が具体的かつ詳細に多数なされており、評価できる。大林組静岡グループ、安藤建設グループは産業教育装置及び設備の特質を概ねとらえ、学習環境にも配慮した付帯工事の提案が具体的に示されている。するがの技、清水・静鉄グループは産業教育装置の特質に応じた付帯工事について基本的な考え方を示しているが、やや具体性にかける部分が見られる。また、鹿島グループについては付帯工事について具体的な提案が示されているものの、周辺も含めた学習環境への配慮については記述がやや欠けている。

b) 設備の配置計画（1点）

・教育効果を高めるための設備の配置計画（1点）

鹿島グループ、大林組静岡グループ、安藤建設グループは実習における生徒の多様な学習活動を理解し、それぞれの実習室や産業教育装置の特質を考慮した動線に配慮し、具体的なレイアウト及び装置配置を提案しており、安全性への配慮も十分になされた提案となっている。するがの技、大成建設グループは、動線への配慮について提案の具体性や提示事例がやや欠けるものの、安全性への配慮について具体的な提案となっている。清水・静鉄グループは生徒の学習活動についての理解はされているが、基本的な考え方が中心で、室内配置計画や安全性の配慮について具体的な提案や説明にやや欠けている。

既存施設の解体等業務に関する事項

「既存施設の解体等業務に関する事項」については、2点を配点し、次の2小項目（1中項目）ごとに評価を行った。

a) 全般（2点）

・十分な交通安全対策、及び工事に伴う近隣への悪影響を最小限に抑える解体計画（1点）

するがの技、大林組静岡グループ、清水・静鉄グループ、大成建設グループ、安藤建設グループは近隣への悪影響を抑える具体的な提案がなされている。鹿島グループは近隣への悪影響を抑える提案がなされているが一般的な内容にとどまっている。

・建設廃材の処理方法を十分考慮した解体計画（1点）

各グループとも建設廃材処理、資材の再資源化について具体的な提案がなされている。

新設施設の維持管理業務に関する事項

「新設施設の維持管理業務に関する事項」については、9点を配点し、次の6小項目（6中項目）ごとに評価を行った。

a) 建築物等維持管理業務（2点）

・建築物の性能及び状態を常時適切な状態にしておくための適切な業務遂行計画及び方策（2点）

清水・静鉄グループは、業務の遂行体制・一連の流れ及び修繕計画について十分に検討

され、具体的に示されている。するがの技、鹿島グループ、大林組静岡グループ、大成建設グループ、安藤建設グループは、業務の遂行体制・一連の流れ及び修繕計画について十分に検討されているがやや具体性に欠ける。

b) 設備維持管理業務（2点）

- ・設備の性能及び状態を常時適切な状態にしておくための適切な業務遂行計画及び方策（2点）

清水・静鉄グループは、業務の遂行体制・一連の流れ及び修繕計画について十分に検討され、具体的に示されている。するがの技、鹿島グループ、大林組静岡グループ、大成建設グループ、安藤建設グループは、業務の遂行体制・一連の流れ及び修繕計画について十分に検討されているがやや具体性に欠ける。

c) 屋外体育施設・外構等維持管理業務（1点）

- ・屋外体育施設・外構等の性能及び状態を常時適切な状態にしておくための適切な業務遂行計画及び方策（1点）

清水・静鉄グループは、業務の遂行体制・一連の流れ及び修繕計画について十分に検討され、具体的に示されている。するがの技、鹿島グループ、大林組静岡グループ、大成建設グループ、安藤建設グループは、業務の遂行体制・一連の流れ及び修繕計画について十分に検討されているがやや具体性に欠ける。

d) 大規模修繕業務（2点）

- ・長期に亘り、建物性能を維持し資産価値を保全するための改修計画（2点）

大成建設グループは長期修繕計画が具体的に提案されており、事業終了時の耐用年数確保に優れているとともに、大規模修繕の使用材料、施工方法等の内容が適切であり、学校運営上大きな支障となることはないと思込める。清水・静鉄グループは長期修繕計画が具体的に提案されており、事業終了時の耐用年数確保に優れているとともに、大規模修繕の使用材料、施工方法等の内容が適切である。するがの技は長期修繕計画がやや具体性に欠けるが、大規模修繕の使用材料、施工方法等の内容が適切で、学校運営への配慮もなされている。安藤建設グループは長期修繕計画が具体的に提案されており、事業終了時の耐用年数確保に優れているが、学校運営への配慮がやや不足している。鹿島グループ、大林組静岡グループは使用材料について提案があるが、長期修繕計画、学校への配慮等全般的に具体性に欠けている。

e) 環境衛生管理・清掃業務（1点）

- ・各業務ごとの管理項目・作業内容・頻度等に関する適切な業務遂行計画及び方策（1点）

大林組静岡グループ、清水・静鉄グループ、大成建設グループは、建物を快適かつ清潔に利用するための業務水準を相互補完的、自発的に設定し、それを遵守するための方策が提案されている。各グループとも、業務の遂行体制が明らかにされ、業務の一連の流れが適切に提案されているが、するがの技、鹿島グループ、大林組静岡グループ、安藤

建設グループの提案には、記述に具体性を欠く部分が見られる。

f) 保安警備業務（1点）

・適切な業務遂行計画及び方策（1点）

清水・静鉄グループは、生徒、教職員、来校者の安全が確保されるための業務水準を自ら設定し、それを遵守するための方策が非常に優れているとともに、開校時間外の防犯体制が確立されており、業務の遂行体制及び一連の流れが具体的に提案されている。大成建設グループ、安藤建設グループは、生徒、教職員、来校者の安全が確保されるための業務水準を自ら設定し、それを遵守するための優れた方策が提案されているとともに、開校時間外の防犯体制が確立されており、業務の遂行体制及び一連の流れが適切に提案されているが、大成建設グループにあっては、通報後の現場到着時間をより短くできる方策が提案されているものの時間が通常レベルである。するがの技は、開校時間外の防犯体制が確立され、業務の遂行体制及び一連の流れが適切に提案されているが、生徒、教職員、来校者の安全が確保されるための業務水準を自ら設定し、それを遵守するための方策が一般的でやや具体性に欠けている。鹿島グループ、大林組静岡グループは、生徒、教職員、来校者の安全が確保されるための業務水準を自ら設定し、それを遵守するための方策が一般的でやや具体性に欠けており、業務の一連の流れに一部不明確なものがある。

新設施設の運営業務に関する事項

「新設施設の運営業務に関する事項」については、6点を配点し、次の6小項目（2中項目）ごとに評価を行った。

a) 食堂・売店運営業務（3点）

・食堂・売店運営の基本的な考え方や特徴（メニュー、提供する商品、料金設定など）（1点）

清水・静鉄グループは経営方法が明確であり、特に、経営体制や責任の所在や指導体制が確立されており、優れた提案となっている。また、利用者の満足度を高める方法や衛生管理、廃棄物処理・資源再利用に関して、具体的で優れた提案がなされている。するがの技、大林組静岡グループ、大成建設グループ、安藤建設グループは経営方法が明確であり、利用者の満足度を高める方法や衛生管理等に関する提案が概ね全般にわたって具体的になされている。鹿島グループは経営方法は明確であるが、責任の所在や指導体制についてやや不明確な面が見られる。利用者の満足度を高める方法については具体的な提案がなされているが、衛生管理体制についての具体的な提案が欠けている。

・適切な厨房計画、運営計画及び採算性確保のための具体的な対策（利用者確保策、年間を通じた営業内容の工夫、営業成績が変化した場合の対応策など）（1点）

大成建設グループ、安藤建設グループは汚染防止や作業性、衛生面の配慮などに優れた、具体的で細部にわたる厨房計画の提案をしており、食堂の運営計画についても採算性確保や継続的な改善方法について具体的で優れた提案をしている。するがの技、大林組静

岡グループ、清水・静鉄グループは食堂の運営計画についてロス軽減・継続的改善の提案、従業員モラル向上方策など具体的な提案を行っているが、厨房計画について具体性にやや欠ける面も見られる。鹿島グループは厨房計画、食堂運営計画において基本的な考え方の提案が中心であり、具体性にやや欠けている。また、需要予測や従業員モラル向上方策、利用者減少対策など採算性確保のための具体的な提案が不足している。

・食堂・売店運営に取り組む事業者の実績（1点）

清水・静鉄グループは、食堂、売店について共に十分な実績を有している。大成建設グループ、するがの技は、食堂の直営での実績に欠けるものの、食堂・売店の両方に概ね良好な実績を有している。大林組静岡グループ、安藤建設グループ及び鹿島グループは、食堂については概ね実績を有しているが、売店の実績が不足している。

b) 生涯学習講座運営業務（3点）

・生涯学習講座運営の基本的な考え方や特徴（1点）

清水・静鉄グループ、大成建設グループ、安藤建設グループは生涯学習の意義や趣旨を十分に理解し、公共性に配慮した講座運営の提案や受講者の安全・衛生・防災等の管理方法や情報管理の体制、施設・設備の管理等について具体的で優れた提案をしている。するがの技、大林組静岡グループは生涯学習の意義や趣旨を理解し、講座運営の提案や受講者の安全確保等について具体的な提案がされているが、施設・設備の管理についての提案が不足している。鹿島グループは、生涯学習の意義や趣旨については理解しているが、運営の責任について明確さに欠け、情報管理体制については具体的な提案がなされているが、受講者の安全・衛生・防災等の管理方法や施設・設備の管理についての提案が不足している。

・適切な運営計画及び採算性確保のための具体的な対策（受講者確保策、営業成績が変化した場合の具体的な対応策など）（1点）

清水・静鉄グループは、需要予測が的確になされており、採算性確保のための対策や継続的な改善方法について効果の期待される具体的で優れた提案がなされている。安藤建設グループは、需要予測に関する具体的な記述にやや欠けるものの、市場原理の導入など採算性確保や継続的改善方法について具体的で優れた提案がなされている。するがの技は、需要予測が的確になされており、継続的改善方法について具体的な提案をしているが、採算性確保のための対策に具体性を欠いている。大林組静岡グループ、大成建設グループは、需要予測に関する具体的な記述に欠けるものの、採算性確保のための対策や継続的改善方法について具体的な提案をしている。鹿島グループは、全般的に一般的な考え方の提案に留まっており、需要予測や採算性確保のための対策についての記述に欠け、具体性に欠ける提案となっている。

・生涯学習講座運営に取り組む事業者の実績（1点）

するがの技は、生涯学習講座の開講・事業の受託に関連して十分な実績を有している。

大成建設グループ、安藤建設グループ、鹿島グループは、生涯学習講座運営に関連して、公的施設の事業受託の実績に欠けるものの、講座開講について概ね良好な実績を有している。清水・静鉄グループ、大林組静岡グループは、直近の講座開講実績に欠け、全般的に事業実績が不足している。

事業計画全般に関する事項

「事業計画全般に関する事項」については、15点を配点し、次の6中項目ごとに評価を行った。

a) 本事業を確実にかつ効果的に実施できる適切な業務執行体制（2点）

大成建設グループ、清水・静鉄グループ、するがの技及び大林組静岡グループは、グループ構成員間の業務分担（リスク分担）が明確になっており、代表企業が事業全体をマネジメントできる具体的な提案がされており、業務情報の一元管理を行える体制が整えられている。安藤建設グループ、鹿島グループの提案は、リスク分担に関し具体性に欠ける面があり、さらに、鹿島グループの提案は代表企業による事業全体のマネジメントに関しても不明確である。

b) リスク管理方針と対策（2点）

大成建設グループ、清水・静鉄グループは、運営業務の採算性が悪化した場合や緊急事態が発生した場合等のリスク管理方針とその対策の全般について、具体的かつ適切な提案がされている。するがの技、大林組静岡グループ、安藤建設グループは、運営業務の採算性が悪化した場合や緊急事態が発生した場合の対策についてやや具体性に欠けるものがあつた。鹿島グループの提案は、リスク管理方針とその対策の全般について具体性に欠けている。

c) 資金調達計画の確実性（2点）

どのグループも、資金調達計画について、確実性のある提案がされているが、大成建設グループと清水・静鉄グループの提案は、調達先のバックアップに欠ける。また、大林組静岡グループと鹿島グループの提案は、自己資本比率に関しやや低率である。

d) 適切な事業収支計画、キャッシュフロー計画（1点）

どのグループも妥当な事業収支計画、キャッシュフロー計画が提案されているが、安藤建設グループの提案は、事業採算性指標がやや劣る。

e) 事業の安定性・継続性（3点）

・ 運転資金の不足に対する対応策、その他事業安定のための独自の工夫（3点）

どのグループも、事業の安定性・継続性について、妥当な提案がされているが、大林組静岡グループの提案は、劣後ローン停止付帯条件で他のグループよりも踏み込んだ内容となっている。一方、安藤建設グループと鹿島グループの提案は、やや具体性に欠ける

部分が見られる。

f)地域社会経済への配慮（5点）

するがの技は、地域企業の育成等を始め地域社会経済への配慮全般について、具体的な提案が十分になされているが、清水・静鉄グループは、地元人材の活用等を始め地域社会経済への配慮全般について、具体的な提案がなされているものの、災害時の地域社会への貢献に関し特筆すべき記述がない。また、大成建設グループの提案については、地域企業の育成等に関し特筆すべき記述はなく、さらに、地域社会への配慮についても、全般的にやや具体性に欠ける。安藤建設グループの提案についても、地域企業の育成等に関し特筆すべき記述はなく、さらに、地元人材の活用に関してもやや具体性に欠ける。大林組静岡グループ及び鹿島グループの提案は、地元人材の活用及び地域企業の育成等に関しやや具体性に欠ける。さらに、地域社会への配慮についても、地域に向けた具体的なソフト事業の提案に乏しいなどやや具体性に欠ける。

サービス購入料に関する事項

「サービス購入料に関する事項」については、30点を配点し、県が支払うサービス購入料の合計を現在価値化した値（割引率3%）が最も低いもの（1位）を満点とし、次順位以下は、1位の金額との比率を用いて算出した。

- ・計算式 得点 = 配点 × 最低提案金額 / 当該入札参加者の提案金額
- ・計算結果

グループ名	提案金額	得点	算出方法
するがの技	5,118 百万円	30.00 点	30 点
大成建設グループ	5,568 百万円	27.58 点	30 点 × (5,118 百万円 / 5,568 百万円)
鹿島グループ	6,111 百万円	25.13 点	30 点 × (5,118 百万円 / 6,111 百万円)
安藤建設グループ	6,407 百万円	23.97 点	30 点 × (5,118 百万円 / 6,407 百万円)
大林組静岡グループ	6,507 百万円	23.60 点	30 点 × (5,118 百万円 / 6,507 百万円)
清水・静鉄グループ	6,660 百万円	23.06 点	30 点 × (5,118 百万円 / 6,660 百万円)

(3)提案評価（二次審査）結果

提案評価の結果、するがの技が 78.50 点、清水・静鉄グループが 76.31 点、大成建設グループが 76.08 点、大林組静岡グループが 75.60 点、安藤建設グループが 70.22 点、鹿島グループが 60.63 点となり、するがの技を第 1 位とした。

4 総評

本事業は、清水工業高等学校と静岡工業高等学校という 2 校の伝統ある工業高等学校を再編し、

理数科を併置した新しいタイプの専門高校である総合科学技術高等学校（仮称）を整備する事業であり、技術革新に柔軟に対応できる将来のスペシャリストを育成できる教育条件の整備を図る上で、民間事業者の創意工夫が大いに期待される事業である。

PFI事業の導入に当たっては、本事業特有の産業教育装置等の調達・移設業務など特殊性もあったが、実施方針に関する説明会、既存工業高等学校2校の見学会には多くの企業の出席があり、また、各公表資料に対して多数の質問・意見が寄せられ、最終的には6グループからの提案があった。

審査を行った6グループのいずれの提案も、グループ構成員等の有するノウハウや創意工夫を活用し、総合科学技術高等学校（仮称）の特色に配慮した設計、建設、産業教育装置等の調達・移設、維持管理及び運営が提案されており、より良質で魅力ある公共サービスの提供が期待できる内容となっていた。

さらに、県の想定を上回る財政負担の削減が提案されており、本審査会としては各グループの提案に当たっての努力を高く評価し、また、深く感謝申し上げたい。

本審査会では、公平性及び透明性の確保に特に留意し、3(2)総合審査に記載のとおり、具体的なグループ名や企業名を伏せる匿名審査を基本として実施した。

審査は、落札者決定基準に基づき、新しいタイプの高等学校にふさわしく、生徒、教職員及び施設利用者にとってよりよい提案を選定するという視点で、慎重に行った。

その結果、提案金額及び以下の点を含めた提案内容を総合的に評価し、委員の総意をもってするがの技を第1位とした。

- ・ 諸室の配置において、生徒、教職員、地域開放施設の利用者が利用しやすい計画とし、また地域の環境に十分に配慮した計画としている点
- ・ 建設・解体時における十分な安全対策や周辺環境への影響を抑える具体的な提案がされている点
- ・ 事業実施のための業務遂行体制が効果的であるとともに、資金面の対策が具体的かつ詳細であり事業の持続的かつ高レベルな実施が期待できる点
- ・ 事業計画において地域社会経済への配慮が十分になされている点

なお、するがの技の提案には、屋外運動場の利用計画や諸室の配置計画の一部などに改善することが望まれる点もある。

本審査会は、県が、するがの技を落札者と決定した場合には、これらの点も含め、今後の設計・建設、さらには維持管理や運営において、同グループの協力を得ながら、利用しやすく、ものづくり教育の拠点校にふさわしい、魅力ある高等学校として整備されることを要望する。